

健康都市実現は チーム合志一丸で

来海 恵子議員



来海 介護保険の取り組みについて、先進地の埼玉県和光市、長崎県佐々町、山鹿市、玉東町に行ってきた。コンサルタント任せでなく、策定委員の意見を反映させて、担当者が自分の言葉で具体的に計画を書いている。本市も、第8期計画で具体的な計画書を作ってほしいが。

健康福祉部長 保健師だけでなく全体で地域に向いて現場の声を聞いて、それを第8期計画に生かされればと考えている。

来海 どこも包括のリーダーは、保健師が担っている。先進地は地域に向いて、しっかりと説明会を開き、意見を聞き、丁寧に個別のケア会議をして、部内で情報交換をしながらやっていくところが多かった。ぜひ、本市でも保健師を中心に協力しながら、月1回のいきいきふれあいサロンだけでなく、やはり週に何回か歩いて行けるようなところができると、ぜひと違ってくるので検討していただければと思うがいかがか。

健康福祉部長 健康福祉部では、今

年度情報の共有に努めており、モデル的な地区や人を探して、そこを突破口に広げていきたいという思いはある。今年度は、できるだけ地域に入ることを目標にやっていきたい。

来海 第7期計画で、よくできていると思ったことが1つあった。それは小学校校区ごとの地域把握に向けた分析結果であるが、高齢化率、地域のニーズ、課題等々の細かい分析がなされている。このデータを生かして、地域によってはつきりとニーズが違うので、まずは各校区一カ所ずつからやられてみたらと思う。



※地域包括ケアシステムは、福祉、中学校区単位として構築
NPO・老人クラブ・ボランティアなど

まちの活性化に若者の 居場所と出番づくりを！

濱口 正暁議員



濱口 地域活動活性化のため、小中高生の地域行事への企画時点からの参入やイベントへの参加拡大を図ってはどうか。

学校教育課長 地域への愛着を持たせるといふことで、29年度の調査結果では小学6年生が60%、中学3年生が28%の参加意識を持っている。また、今度小中一貫教育を始めるのでさらに地域とのかわりを持つことについて検討すべきと思っています。

教育長 子どもたちの社会参画やボランティア活動について、保護者の皆さんへどうか背中を押して下さいというんな場をお願いしている。

濱口 地域の大学生、あるいは大学との連携協定とのかわり方で進めていることはあるか。

企画課長 地震の後の市民アンケート調査で、大学生等若者層が地域活動や社会貢献に対して50%以上の関心を持っていると答えている。仕組みづくりを研究してみたい。

濱口 高齢化する地域活動の中に、若者の居場所と出番をつくり新しい

力を導入する工夫をすべきでは。

企画課長 若い人たちの居場所と出番は非常に大切で、推進していきたいと思っています。

市長の所信表明のCSM

濱口 「六つの健康」で合志市を元気にという中で「自治の健康」「産業の健康」について伺う。

市長 まちづくりの主役は市民である。地域の熱意が予算を動かすし、地域でやりたい事業に対して行政がサポートする。



建設中のアンビー熊本

SDGs 食品ロス削減について

松井美津子議員



松井 食品ロス削減について会食開始の30分と、終了の10分前に自席で料理を箸しむ3010運動と、使い切り・食べ切り・水切りの3キリ運動について本市の取り組みは、環境衛生課長 広報誌や、ホームページで呼びかけたい。

市長 3010運動については、次の補正予算で提案させていただく。

市民サービスについて

松井 「読み書き(代読・代筆)サービスを行います」などのボードを設置したらどうか。

総務課長 読み書きが難しい高齢者や、障がい者の相談が多い福祉部門に案内の一つとして内容を検討する。

地域包括ケアシステム

松井 公明党が行ったアンケートの中で、このシステムの制度を知らない声が多いが、市民への分かりやすい周知が必要ではないか。

高齢者支援課長 地域包括ケアセンターの周知は、健康教室、包括通信



包括支援センター

を配布しているが、地域への浸透ができていないので周知に努めたい。

介護予防について

松井 介護保険料を1円でも上げないための取り組みについて伺う。

高齢者支援課長 地域の問題点、解決の場として、地域ケア会議を充実させ、フレイル予防に努め介護事業予防にさらに取り組んでいく。

医療的ケア児の支援

松井 医療的ケア児支援のため小中学校へ看護師の配置の考えは、学校教育課長 看護師資格を持つ補助員を配置している。

大津・西合志線の 四車線化

青木 照美議員



青木 県道大津西合志線については、ますます渋滞がひどくなるばかりである。大津西合志線、あるいは国道387号線が本市の中心道路である。この2路線の四車線化についての取り組みは。

市長 スマートインターチェンジが完成すれば、さらに渋滞が予想される。県道大津西合志線については、ソニーや東京エレクトロンを中心とした工業団地を控えており、県や菊陽町とも関係が深い。熊本県を支えている経済としての循環道路であるために、県にも積極的にお願いをしている。

青木 県道については、御代志の交差点から東側は県有地と農地であり、用地買収は地権者の協力を得やすいと思うが。

市長 県道、国道については通過型の車両が多数を占めている。合志市内、地元の車両による渋滞ではない。通勤に時間を取られる事は熊本県の経済力が低下する。用地の先行取得については指摘のとおりである。私

も引き続き気合と迫力を持って県当局へ要望をしていく。

青木 中九州横断道路の進捗状況は、建設課長 平成27年9月に本市を通るルートに決定した。昨年11月に環境影響評価方法書の説明会が開催され、今年度中には詳細設計が実施された後、ルート決定される。今のところ、完成時期については未定である。

市長 これに関しては、九州自動車道路側から大津まで、早期に完成させないと復旧復興が進まない。そこで熊本県知事が優先順位を一位に位置付けた。あとは財源の確保が必要である。地元合志市の用地交渉については、私も全力を挙げて努力する。



大津・西合志線 (JT交差点付近)